

《専門科目》

科目名	保育者・教職原論				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育所保育士・施設保育士・幼稚園教諭・こども園保育教諭など多様な職場で活躍する保育者の実態を理解し、幼児教育・保育の担い手としての保育者について、職務の特性や内容、課せられた義務や果たすべき責任について学ぶ。資料収集やグループワーク、発表を通して幼児教育・保育のねらいを達成することのできる、高い専門性を身に付けた保育者としてのキャリア形成について自ら考える力を培う。

《授業の到達目標》

保育者の存在意義、職業の特徴、求められる役割、基礎的な資質能力など職務の全体像を理解し、説明することができる。研修の意義、制度上の位置づけ、生涯にわたって学び続ける必要性について、説明することができる。職務上・身分上の義務、身分保障等を理解し、組織の一員として職務を遂行することの重要性について、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現することができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポートを60%、最終レポートを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「保育者 - 主体性のある保育者を目指して - 」2020年萌文書林

《参考図書》

「保育用語辞典第8版」平成27年4月、ミネルヴァ書房
「保育者 新・基本保育シリーズ」2019年中央法規出版
「子どもとともに未来をデザインする 保育者論・教育者論」2020年わかば社

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、教科書の該当ページを精読したうえで、文献・インターネット等を用いて自己学習する。毎回、授業の初めに読む新聞記事について、考えたことを自宅学修としてレポートする。教員からのフィードバックを基に、学修内容を振り返り、小レポートを修正して、最終レポートに備える、本授業では60時間の時間外学習が必要委Bである

《課題に対するフィードバック等》

毎回授業で実施する小レポートは、コメントを付してフィードバックし、次の授業で解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者とは何か	他の職業と比較した保育者の特性、保育者の役割について考える [時間外学習] テキスト全体を概観し、テキスト第1章を読んでおくこと
2	幼稚園や保育園で働く保育者	幼稚園教諭と保育士の共通点や利害について理解する [時間外学習] 前回の学修を振り返り、テキスト第2, 3章を読んでおくこと
3	こども園や施設で働く保育者	こども園で働く保育教諭、施設で働く保育士の仕事内容について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第4章をよんでおくこと
4	保育者に求められる倫理	保育指針や関係法令等に示された保育者の倫理、子どもの最善の利益について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第5章を読んでおくこと
5	保育者の法的位置づけ	保育者の法的位置づけを確認し、信用失墜行為、守秘義務について理解する(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第6章を読んでおくこと
6	保育者の専門性(1)	保育者の心構え、子ども理解の重要性やその方法について理解する(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第7章を読んでおくこと
7	保育者の専門性(2)	養護・教育それぞれの意味、その一体的展開について理解する(グループワーク) [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第8章を読んでおくこと
8	保育者の専門性(3)	保育の室について考え、保育の質を向上させるための方法を理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第9章をよんでおくこと
9	保育者の専門性(4) 保育実践と省察・評価	保育におけるPDCAs愛来の意味、その具体的方法について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第10章を読んでおくこと
10	海外の保育に学ぶ	関心を持った国の保育の状況について調べ、日本の保育との違いやその背景について考える [時間外学習] 「海外の保育」で検索し、サイト内容を閲覧しておくこと
11	保育者の連携・協働(1) 園内の保育者チーム	園内の様々な職種に注目し、それぞれがチームの一員であることを理解する(グループワーク) [時間外学習] テキスト第11章の1を読んでおくこと
12	保育者の連携・協働(2) 家庭との連携	家庭との連携、子育て支援について知り、よりよい保育のあり方について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第11章の2を読んでおくこと
13	保育者の連携・協働(3) 専門機関や地域との連携	保育を支える行政の役割、自治体や専門機関との連携、保養賞の連携について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第12章を読んでおくこと
14	保育の現代的な課題	保育職の特徴やメンタルヘルスの維持、就労継続の問題について理解する [時間外学習] 前回の学習内容を振り返り、テキスト第14章を読んでおくこと
15	理想の保育者を目指して	保育者の求められる様々な指標をもとに今の自分の姿を見つめ、保育職に向けて必要となる事柄を分析する [時間外学習] テキスト第15章を読んでおくこと

《専門科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

幼稚園教諭及び保育士に必要な教育の基礎理論として、教育の理念・歴史・思想や、教育の制度や経営について修得し、教育の本質や目的について学ぶ。また、それらを基盤として、よりよい教育・保育活動の実現に積極的に取り組むことができる力量を身に付ける。

《テキスト》

西本聖編著「いまがわかる教育原理」初版（株みらい2021）
「幼稚園教育要領」<平成29年告示>
「幼稚園教育要領解説」<平成29年告示>

《参考図書》

授業時に適時紹介する。

《授業の到達目標》

保育者として必要な教育の基礎理論を修得し、その理論について説明できる。

教育の理念・歴史・思想や、教育に関する社会的・制度的・経営的な基本事項を理解し、説明することができる。

幼稚園及び保育施設における教育実践の様々な取り組みや課題について理解し、その解決方法を考え、説明することができる。

《成績評価の方法》

定期試験40%、「ワークシート」の内容及びグループワークや発表等への意欲や積極的な態度を60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

- ・準備学習としてテキストを予め読んでおく。
- ・課題について、ワークシートを完成させる。
- ・事後学習として、ワークシートを基に、何を修得し何が理解できなかったのかを整理しておく。
- ・本授業では60時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

ワークシートにより学生の理解度を確認し、次回の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育の意義	教育の意義 - ヒトは教育によって人間になる - (グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.14～25をよく読んでおくこと。
2	教育の目的	教育の目的の歴史、保育内容から見る教育の目的など(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.26～37をよく読んでおくこと。
3	教育と児童福祉のつながり	教育と福祉の関係、子育て支援と少子化対策(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.38～47をよく読んでおくこと。
4	人間形成と家庭・地域・社会	「家庭・地域・社会と連携する」ということ(調べ学習、グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.48～59をよく読んでおくこと。
5	教育制度の基礎	日本、西洋の教育制度について [時間外学習] テキストのP.60～71をよく読んでおくこと。
6	さまざまな国の教育思想家	コメニウス、ルソー、ペスタロッチなどについて(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.72～83をよく読んでおくこと。
7	日本の教育思想と歴史 明治まで	日本の教育制度の歴史(明治まで)について [時間外学習] テキストのP.84～91をよく読んでおくこと。
8	日本の教育思想と歴史 大正以降	日本の教育制度の歴史(大正以降)について(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.92～99をよく読んでおくこと。
9	近代教育成立の歴史(その1)	近代公教制度の確立について(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.100～106をよく読んでおくこと。
10	近代教育成立の歴史(その2)	近代公教制度の確立について(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.107～113をよく読んでおくこと。
11	子ども観と教育観とは何か	子ども観、教育観の歴史について [時間外学習] テキストのP.114～121をよく読んでおくこと。
12	子ども観と教育観の変遷	これからの子ども観、教育観について(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.121～129をよく読んでおくこと。
13	教育実践の多様な取り組み(その1)	多様な教育実践、フレール主義、モンテッソーリ・メソッドなど(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.160～168をよく読んでおくこと。
14	教育実践の多様な取り組み(その2)	多様な教育実践、シュタイナー教育、フレネ教育など(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.169～174をよく読んでおくこと。
15	現代の教育課題	多様性(Diversity)を受け入れる教育、保育の現状と課題(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.192～204をよく読み、各グループ発表のテーマを設定。

《専門科目》

科目名	保育原理				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

この授業では、保育の意義や目的、保育に関する法制度、保育所保育指針における保育の基本的な考え方などについて学ぶ。また、保育の思想と歴史の変遷、現状と課題についての基礎的な理解を得る。

本授業では、各回のテーマや映像資料に基づくグループディスカッションを行う。

《授業の到達目標》

保育の意義や目的、保育に関する法制度について理解し、説明することができる。

保育所保育指針における保育の基本的な考え方について理解し、説明することができる。

保育の思想や歴史を踏まえながら、保育の現状と課題について自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業中に示す課題20%、その他の提出物等30%、期末試験50%
総合評価60点以上で合格とする。

《テキスト》

吉見昌弘・斎藤 裕編（2021）『はじめて学ぶ保育原理 [新版]』北大路書房

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレ・ベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレ・ベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレ・ベル館

《授業時間外学習》

事前学習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業中に示す課題等については授業内で取り上げ、解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育とは何か	保育とは何かについて考える 事前学習：テキスト第1章第1～2節を読む
2	保育の理念	保育の理念について 事前学習：テキスト第1章第3～5節を読む
3	保育の制度	保育の制度について 事前学習：テキスト第2章を読む
4	保育所保育指針	養護と教育の一体性 事前学習：テキスト第3章第1～4節を読む
5	保育所保育指針	保育の内容と5領域 事前学習：テキスト第3章第5～7節を読む
6	子どもの発達と保育	子どもの発達と保育について 事前学習：テキスト第4章第1～2節を読む
7	子どもの発達と保育	子どもの発達と保育について 事前学習：テキスト第4章第3～4節を読む
8	子どもの発達と保育	子どもの発達と保育について 事前学習：テキスト第4章第5～6節を読む
9	保育の方法	保育の方法について 事前学習：テキスト第5章を読む
10	保育の形態	保育の形態について 事前学習：テキスト第6章を読む
11	諸外国における保育の思想と歴史	諸外国における保育の思想と歴史について 事前学習：テキスト第8章第1節を読む
12	日本における保育の思想と歴史	日本における保育の思想と歴史について 事前学習：テキスト第8章第2節を読む
13	保育の現状と課題	保育の現状と課題について 事前学習：テキスト第9章第1,2節を読む
14	子育て支援	子育て支援について 事前学習：テキスト第7章を読む
15	諸外国における保育	諸外国における保育について 事前学習：テキスト第9章第3節を読む

《専門科目》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

待機児童・虐待・貧困等、子育てに関する様々な問題解決が社会全体で求められている。保育士を目指す者は、その専門性をより一層高めるために、社会福祉について深く理解する必要がある。保育に関連する社会福祉および子ども家庭支援に関する事項について様々な視点から学び、グループディスカッションなどを通して実践をふまえた理解を深め、保育士としての土台を修得する。

《授業の到達目標》

社会福祉の歴史の変遷・動向を踏まえて、社会福祉における子ども家庭支援の視点について述べるができる。
社会福祉の制度・実施体系等について説明できる。
社会福祉における相談援助について述べるができる。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる。
社会福祉の動向と課題について述べるができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、ミニテスト等30%、定期試験70%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ4
松原康雄他編集「社会福祉」中央法規

《参考図書》

福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語辞典（第2版）」（テコム 2017）
「子どもによる子どものための子どもの権利条約」
小口尚子・福岡鮎美著（小学館）

《授業時間外学習》

社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。
各授業に参加するにあたって事前に提示された課題を学習しておくこと。
授業後はワークシートで課題の見直しをすること。
本授業では60時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業で提出されたミニテストに対して授業でコメントを付すことでフィードバックを行います。疑問点や質問は授業内、授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念と歴史の変遷	社会福祉とは何か、理念と実践とは、人々の命や生活に果たす役割の理解 予習：教科書p2-12 復習：教科書該当箇所・ワークシート
2	子ども家庭支援と社会福祉	家庭支援の重要性と子ども家庭支援の具体的役割の理解 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート
3	社会福祉の制度と法体系	社会福祉の法体系、制度法律の位置づけと役割の理解及び具体的支援を学ぶ 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設	制度の整備、相談機関の役割、社会福祉財政、社会福祉施設の理解 予習：教科書p38-52 復習：教科書該当箇所・ワークシート
5	社会福祉の専門職	社会福祉分野（対人援助）における専門職及び児童福祉施設の専門職について理解 予習：教科書p54-64 復習：教科書該当箇所・ワークシート
6	社会保障および関連制度の概要	社会保障制度の対象、役割、具体的対応の理解 予習：教科書p66-76 復習：教科書該当箇所・ワークシート
7	相談援助の理論	相談援助の成り立ち、発展の概略及び現場実践での留意点を学ぶ 予習：教科書p78-88 復習：教科書該当箇所・ワークシート
8	相談援助の意義と機能	専門職として相談援助を行う意義や態度、あり方、価値・倫理、原則の理解 予習：教科書p90-100 復習：教科書該当箇所・ワークシート
9	相談援助の対象と過程	相談援助の対象、過程、援助者の態度や視点の理解 予習：教科書p102-112 復習：教科書該当箇所・ワークシート
10	相談援助の方法と技術	相談援助技術の特性及び環境や社会資源との関連、関係機関との連携や課題の理解 予習：教科書p114-126 復習：教科書該当箇所・ワークシート
11	利用者の保護にかかわるしくみ	利用者保護制度の背景や法的根拠、しくみ、今後の課題について学ぶ 予習：教科書p128-138 復習：教科書該当箇所・ワークシート
12	少子高齢化社会における子育て支援	少子化の現状及び対策の展開、保育所の役割についての理解 予習：教科書p140-150 復習：教科書該当箇所・ワークシート
13	共生社会の実現と障害者施策	障害のとらえ方及び現状、障害者福祉施策の展開過程、保育所の役割を学ぶ 予習：教科書p152-162 復習：教科書該当箇所・ワークシート
14	在宅福祉・地域福祉の推進	地域福祉の考え方や実践方法、地域住民、隣接領域の専門職とのかかわり方を学ぶ 予習：教科書p164-174 復習：教科書該当箇所・ワークシート
15	諸外国の社会福祉の動向とまとめ	福祉国家とは何か、先進諸国の現状及び歴史的な経緯について理解する 予習：教科書p176-186 復習：教科書該当箇所・ワークシート

《専門科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

講義および集団討論を通して、発達に関する代表的な理論を踏まえて、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について学ぶ。学習に関する代表的な理論の基礎を理解する。主体的学習を支える動機づけや集団作りなどのあり方について、発達の特徴と関連付けて理解する。発達を踏まえた学習活動を支える指導の基礎的知識を学ぶ。

《授業の到達目標》

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、毎時間の授業で提出するリアクションペーパーの記載内容30%で総合評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

松本峰雄(監修) 2021 保育の心理学 演習ブック [第2版] ミネルヴァ書房

《参考図書》

谷口明子・廣瀬英子 2017 育ちを支える教育心理学 学文社
石井正子・松尾直博 2004 教育心理学 保育者をめざす人へ 樹村房
服部環 2012 「使える」教育心理学<増補改訂版> 北樹出版

《授業時間外学習》

予習として、テキストの次回授業内容に該当するページを精読し、自らの興味関心および疑問点などを挙げる「予習ノート」を作成し、授業に臨むこと(2時間)。また、復習として「予習ノート」と「授業ノート」を照らし合わせて復習し、ノートの整理をすること(2時間)。本授業では予習・復習を合わせて合計60時間の授業時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りを行いません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達を理解することの意義	発達を理解することの意義と方法、個人差について理解する。<授業外>テキスト「1コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
2	子どもの発達と環境	発達の規定因について学び、子どもが育つ環境の影響について理解を深める。<授業外>テキスト「2コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
3	発達に関する理論	精神分析など代表的な発達理論を学び、発達の考え方について理解する。<授業外>テキスト「3コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
4	子ども観と保育観(含グループワーク)	子ども観と保育観に関する代表的な考え方を学び、保育の課題について理解を深める。<授業外>テキスト「4コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
5	社会情動的発達	感情や社会性の発達について学び、親子関係および仲間関係の変化を理解する。<授業外>テキスト「5コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
6	学級集団の理解と活用	集団の機能について理解を深め、その活用方法について考える。<授業外>配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
7	身体的機能と運動機能の発達	身体・運動機能の発達の原理と特徴を理解する。<授業外>テキスト「6コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
8	認知の発達(含グループワーク)	認知発達理論をベースに、感覚・知覚の発達を理解する。<授業外>テキスト「7コマ目」「8コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
9	知能とパーソナリティ(含グループワーク)	知能の構造と個人差について学ぶとともに、検査の方法について理解する。<授業外>配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
10	言語の発達とコミュニケーション	言語発達の段階と乳幼児のコミュニケーションについて理解する。<授業外>テキスト「9コマ目」「10コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
11	発達に偏りのある子どもの理解と支援	主な発達障害について学び、特別支援教育やインクルーシブ保育について理解する。<授業外>テキスト「11コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
12	乳幼児期の学びに関わる理論1	学習理論を学び、行動を身に付ける過程を理解する。<授業外>テキスト「12コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
13	乳幼児期の学びに関わる理論2	2つの動機づけについて学び、自己効力感を育む保育のあり方について考える。<授業外>テキスト「13コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
14	乳幼児期の学びの過程と特性(含グループワーク)	日常場面における学びを支える人間関係や愛着の重要性を理解する。<授業外>テキスト「14コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
15	乳幼児期の学びを支える保育(含グループワーク)	子どもの学びを促進する環境・保育のあり方について考える。<授業外>テキスト「15コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。

《専門科目》

科目名	子どもの保健				
担当者氏名	吉田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「子どもの保健」は、子どもの心身の健康を守ると同時に、子どもの健康を保持・増進させるために行うすべての活動を指している。その活動を行うためには、子どもを取り巻く社会、環境を学習すると共に、成長・発達に関する知識、子ども特有の病気の理解、予防の方法等、事故予防など多岐にわたる知識を必要とする。家族との連携を重視し子どもが健やかに成長するための支援について基礎的な知識を学習する。

《授業の到達目標》

- (1) 子どもを取り巻く社会の現状や歴史を学び、子どもの保健の重要性を説明できる。
- (2) 子どもの成長・発達を学び、社会の中での子どもを説明できる。
- (3) 子ども特有の病気について説明できる。
- (4) 子どもの事故を理解し予防行動を説明できる。
- (5) 地域の子育て支援について説明できる。

《成績評価の方法》

- ・ 終講筆記試験 = 60%
 - ・ 課題レポート・提出物40% 授業態度を加味する。
- 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

丸尾良浩 他「子どもの保健」 ミネルヴァ書房 2021
 小林玄 他 「子どもの保健と安全 演習ブック」ミネルヴァ書房 2020

《参考図書》

丸尾良浩他「子どもの健康と安全」ミネルヴァ書房2020
 古荘純一「子どもの精神保健テキスト」第2班 診断と治療社 2019

《授業時間外学習》

- ・ 次回の講義の予習として、該当箇所の教科書を読み、予習すること。毎回の授業について、予習、復習（概ね4時間）の自己学習が必要である。
- ・ シラバスの課題等に沿って学習すること
- ・ 子どもの健康について関心をもち、幅広い知識を身につけておくこと。

《課題に対するフィードバック等》

- ・ 不明点や疑問点については、講義内および講義終了後フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「子どもの保健」概要	・子どもの心身の健康と保健の意義 保健統計 小児医療変遷 課題レポート テキスト P2～15 1～11（予習）
2	成長・発達 概要 1	・身体発育と保健 発達評価 テキスト P31～47 16～27（予習） 練習問題（時間外学習）
3	発達理論	・エリクソン自我発達理論・ボウルビー愛着理論・ピアジェ認知発達論・ハヴィガースト発達課題 配布資料（時間外学習・復習） DVD
4	運動機能の発達と保健	・原子反射、神経系 運動 感覚器 運動機能の発達と評価 DVD テキスト 46～55（予習）
5	生理機能の発達と保健 1	・呼吸、循環、体温、消化器、体液生理、の発達と評価 テキスト P56～66（予習）
6	生理機能の発達と保健 2	・消化吸収、排泄、睡眠（SIDS含）、感覚器官、免疫機能の発達と評価 テキスト P68～78（予習）課題学習資料配布 DVD
7	成長・発達まとめ	・課題学習（発達理論、感覚機能、睡眠、言語、栄養 運動機能 ワーキング（グループ学習・時間外学習）
8	子どもの病気と保育 1	・染色体異常、ダウン症候群の保健、成長発達支援 配布資料（復習） 課題学習提出
9	子どもの病気と保育2	・感染症と保育 感染症と予防接種、 P114～120、162～177（予習・復習）
10	子どもの病気と保育3	・消化器疾患、循環器疾患 川崎病 テキスト P124～131（予習）
11	子どもの病気と保育4	・中枢神経系疾患、重症心身障がい児（医療的ケア児のケアと保育 DVDD） レポート提出次回（時間外学習）
12	子どもの病気と保育5	・アレルギー疾患 整形外科疾患 テキスト P216～226 148～152（予習）
13	子どもの健康と安全 1	・子どもの事故と予防、災害時の対応 テキスト P124～139（予習）
14	子どもの健康と安全 2	・子どもの主要な症状への対応 小児の救急 テキスト P140～158（予習）
15	地域保健活動と保育	・地域社会での子ども関連支援と社会資源との連携 テキスト P228～243（予習） GW 発表

《専門科目》

科目名	健康				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に示す領域「健康」の「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力」について、次あげる内容を中心に学び、グループワークを通して理解を深めていく。領域「健康」の位置づけ、ねらい、乳幼児期の健康な体と心、幼児期の運動発達課題、戸外遊び・自然遊びの意義、子どもの安全な生活とケガや事故

《授業の到達目標》

領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いを理解し、乳幼児期の健康について説明できる。乳幼児期のからだの発育・発達を理解し、援助していくうえで配慮すべき点を説明できる。乳幼児期の安全や健康に関する管理と教育を理解し、配慮すべき点を説明できる。領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の「体育」等とのつながりを説明できる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題・発表（40%）、筆記試験（60%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○吉田伊津美 他編著：保育内容 健康 光生館 2018
○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》

○河邊貴子他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020
○清水將之他編著：改訂版 ねらいと内容から学ぶ保育内容・領域健康 わかば社2018
○幼稚園教育要領解説書，保育所保育指針解説書，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示したテキスト等の該当頁を事前に読み授業に臨むこと。復習として、ノートおよびテキストを読み返しておく他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。（本科目は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、都度コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期の健康課題	乳幼児期の健康と現代的課題について考える [準備学習]テキストのP1-P7を事前に読んでおくこと
2	領域「健康」の位置づけとねらい・内容	領域「健康」の位置づけとねらい・内容・内容の取扱いを理解する [準備学習]テキストのP8-P15を事前に読んでおくこと
3	乳幼児期の体の形態的発育と健康	乳幼児期の形態的発育を知る [準備学習]テキストのP18-P27を事前に読んでおくこと
4	乳幼児期の体の機能的な発育と健康	乳幼児期の体の機能的な発達を知る [準備学習]テキストのP27-P31を事前に読んでおくこと
5	乳幼児期の運動発達	乳幼児期の運動発達の特徴を理解し、遊びの援助について考える [準備学習]テキストのP60-P73を事前に読んでおくこと
6	乳幼児期の視野	子どもの視野を体験し、子どもの動きについて考える（グループワーク） [準備学習]第3～5週で示したテキストの頁を事前に読んでおくこと
7	乳幼児期の生活リズムと生活習慣	乳幼児期における基本的な生活習慣の形成とその課題について考える [準備学習]テキストのP32-P45を事前に読んでおくこと
8	子どもの心の安定感と活動	子どもが「安定感を持って活動する」保育について考える [準備学習]領域健康のねらい・内容・内容の取扱いを事前に読んでおくこと
9	子どもの運動遊び	子どもが「自ら体を動かして活動することを楽しむ」保育について考える [準備学習]テキストのP139-P154を事前に読んでおくこと
10	園生活の構築	子どもが「生活の場をつくりだす」保育について考える [準備学習]幼稚園等のホームページから園生活の流れを調べておくこと
11	自分のからだや健康への関心	子どもが「自分のからだや健康への意識を高める」保育について考える [準備学習]保育所保育士指針の第3章の1を事前に読んでおくこと
12	食育	幼稚園等における食育について考える [準備学習]テキストのP105-P121を事前に読んでおくこと
13	乳幼児期の安全	乳幼児期のケガや事故の実態を知り、安全管理について考える [準備学習]テキストのP46-P59を事前に読んでおくこと
14	安全教育	幼稚園等で行う安全教育について考える [準備学習]テキストのP123-133を事前に読んでおくこと
15	領域「健康」と小学校教育のつながり	領域「健康」における、幼児教育から小学校教育への見通しや接続について考える [準備学習]テキストのP168-P179を事前に読んでおくこと

《専門科目》

科目名	人間関係				
担当者氏名	友澤 加代				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

生涯にわたる人間形成の基礎としての乳幼児期の人間関係の発達や関係性の機微を理解できるようにする。DVDの視聴や事例を読み、意見交換を行うことを通して、保育現場で子どもの姿と保育者の役割について理解する。

《テキスト》

齊藤隆「資質・能力を育む保育内容領域人間関係ー子どもにとっての人間関係とはー」教育情報出版 2023

《参考図書》

文部科学省特別選定DVD 3年間の保育記録 岩波映像株式会社

《授業の到達目標》

- ・「人と関わる力」の発達過程を事例を通して学び説明することが出来る。あそびにおける集団活動の意義について学び説明できる。
- ・乳幼児期の教育の重要性について人間関係の視点から理解し説明できる。
- ・気になる子ども、多様な子どもとのかわりを説明できる。
- ・小学校、保護者、地域と連携について説明できる。

《授業時間外学習》

予習と復習（概ね1時間）の自己学習が必要な科目である。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加度（40%）レポートおよび提出物（30%）、確認テスト（30%）により得点化を行い、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

ワークシートでの課題を適時確認し、次回授業で解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育内容「人間関係」	保育・幼児教育の基本 領域「人間関係」とは 時間外学習(1時間):教科書3章を読んで予習する。復習をする。
2	保育内容「人間関係」のねらいや内容	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱い 時間外学習(1時間):教科書5章・6章・7章(2節)を読んで予習する。復習をする。
3	0・1・2歳児の「人間関係」の発達	乳児の発見 1歳以上3歳未満児の発達 時間外学習(1時間):教科書5章(1節)・6章(1節)を読んで予習する。復習をする。
4	3・4・5歳児の「人間関係」の発達	3歳以上児の子どもの発達 時間外学習(1時間):教科書4章(3節)・7章(1節)を読んで予習する。復習をする。
5	乳幼児の「人間関係」と保育者の関わり	子どもの姿と保育者の関わり 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿 時間外学習(1時間):教科書8章を読んで予習する。復習をする。
6	自立心を育む	自立心の芽生えと自己主張 自立と依存 仲間と支え合う自立心 時間外学習(1時間):教科書8章(1節)を読んで予習をする。復習をする。
7	道徳性・規範意識の芽生え	道徳性の発達 価値観の育ちと規範意識 ルールやきまりの意義 時間外学習(1時間):教科書8章(3節)を読んで予習をする。復習をする。
8	協同性の育ち	個と集団の育ち 遊びの中でみられる人間関係 時間外学習(1時間):教科書4章(1節)・8章(2節)を読んで予習をする。復習をする。
9	子どもの「人間関係」と社会との関わり	地域の中での子ども 地域の中での保育者の役割 時間外学習(1時間):教科書8章(4節)を読んで予習をする。復習をする。
10	子ども同士の「人間関係」の発達	自己の育ちと他者への気づき 子どもの人間関係と保育者の役割 時間外学習(1時間):教科書4章(1節・2節)を読んで予習をする。復習をする。
11	子どもの「人間関係」と指導計画	実際の指導計画 時間外学習(1時間):教科書12章を読んで予習をする。復習をする。
12	特別な配慮を要する子どもの保育	障がいのある子どもへの保育 文化の多様性 時間外学習(1時間):教科書13章・14章を読んで予習をする。復習をする。
13	子どもの「人間関係」に関する社会的課題	子どもをとり巻く人的環境 幼児教育から小学校教育へ 時間外学習(1時間):教科書10章(1節・2節)を読んで予習をする。復習をする。
14	子どもを支える保育者の「人間関係」	保護者と保育者の関わりと子どもの育ち 共に働く人との人間関係 時間外学習(1時間):配布資料を読んで予習をする。復習をする。
15	討議:子どもの「人間関係」を考える	レポートをもとにディスカッション 時間外学習(1時間):レポートの作成と全授業の振り返り。

《専門科目》

科目名	環境				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本授業では、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を身につけられるよう、グループワークや発表・討議を通して背景となる専門領域と関連させながら領域「環境」のねらいや内容についての理解を深める。加えて、コミュニケーション・スキル等の汎用的技能を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。
- (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と取扱い上の留意点を説明できる。
- (3) 「環境」で扱う教材や遊びについて熟知し、説明できる。
- (4) 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。

《成績評価の方法》

成績評価を全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」、「発表及びレポート（35%）」、「学びに向かう力15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の教育の基本と全体構造	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す幼児期の教育の基本と領域「環境」の全体構造〔時間外学習〕幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通してくる
2	領域「環境」のねらいと内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す領域「環境」のねらいと内容〔時間外学習〕領域「環境」のねらいと内容についてまとめてくる（〒1:p.299～300）
3	自然への気付き	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどへの気付きを育む（グループワーク・討議）〔時間外学習〕内容1：自然と触れ合う遊びや教材について調べてくる
4	物の性質や仕組みへの興味や関心	物の性質や仕組みに対する興味や関心を育む（発表・討議）（〒1:p.196）〔時間外学習〕内容2・7：物の性質や仕組みについての遊びや教材を調べてくる
5	自然や人間生活の変化への気付き	季節による自然や人間の生活の変化への気付きを育む（発表・討議）〔時間外学習〕内容3：自然や人間生活の変化に関わる遊びや教材について調べる
6	身近な事象への関心と遊び	自然などの身近な事象への関心を育む（発表・討議）（〒1:p.198）〔時間外学習〕内容4：身近な事象に関心をもつ遊びや教材について調べてくる
7	動植物との関わりと気付き	身近な動植物に接し、生命尊重を育む（グループワーク・討議）〔時間外学習〕内容5：実習園で取り組んでいる動植物と触れ合う事例を調べてくる
8	文化や伝統に親しむ	我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ（発表・討議）〔時間外学習〕内容6：文化や伝統、行事に親しませる遊びや教材について調べてくる
9	物や遊具との関わり	物や遊具と関わり、比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりする（発表・討議）〔時間外学習〕遊びや教材事例について調べてくる
10	数量や図形などへの関心	日常生活の中での数量や図形などへの関心を育む（発表・討議）〔時間外学習〕内容9：数量や図形への関心を促す遊びや教材について調べてくる
11	標識や文字などへの関心	日常生活の中での簡単な標識や文字などへの関心を育む（発表・討議）〔時間外学習〕内容10：標識や文字へ関心を促す遊びや教材について調べてくる
12	情報や施設などへの興味や関心	生活に関係の深い情報や施設などへの興味や関心を育む（発表・討議）11〔時間外学習〕情報や施設に興味・関心を持たせる遊びや教材について調べてくる
13	国旗に親しむ	幼稚園内外の行事において国旗に親しむ（グループワーク・討議）（〒1:p.206）〔時間外学習〕内容12：国旗に親しむ遊びや教材について調べてくる
14	教材や活動を通して学びを育む留意点	領域「環境」における教材や遊びの工夫・留意点（グループワーク・討議）〔時間外学習〕幼児期に扱われる教材や遊びの基本についてまとめてくる
15	内容の関連性と連続性	各領域の内容の関連性と小学校以降の教科等とのつながり〔時間外学習〕学びの連続性の確保がどのように行われているか調べてくる

《テキスト》

1. 幼稚園教育要領解説、文部科学省、フレーベル館 2. 実践例から学びを深める保育内容・領域、環境指導法、わかば社、3. 保育所保育指針解説、厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

- ・「幼稚園教育要領ハンドブック」武藤隆監修、学研
- ・「保育所保育指針ハンドブック」汐見稔幸監修、学研
- ・あしたの保育が楽しくなる実践事例集 ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成編集代表 岡上直子、ひかりのくに
- ・事例で学ぶ保育内容 領域{環境}新訂 武藤隆監修、紀伊國屋書店

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・予習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索してまとめてくる。
- ・復習として、配布プリント・学習履歴表・テキストを振り返り理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知する）ため毎授業作成する学習履歴表は、コメントを付して翌週以降に返却しフィードバックする。

《専門科目》

科目名	言葉				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

幼児期に育みたい資質・能力の一つである「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」を養うことのできる保育者を目指し、領域「言葉」の背景となる専門的な知識を理解し、話し合いや発表を通して言葉の育ちを支える保育者としての意識を高める。また、毎時間のはじめに絵本の読み聞かせなどの発表学修を行う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく言葉の内容と指導上の留意点を説明することができる。また、幼児教育・保育における評価の考え方を理解し、領域「言葉」と他領域の関わり、小学校の教科等とのつながりについて述べることができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポートを40%、最終レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）
「新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉」2018萌文書林

《参考図書》

「よくわかる 言語発達」[改訂新版]2017ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、テキストの該当ページを精読した上で、文献・インターネット等を用いて自己学習し授業に備えるとともに、授業後に学びの振り返りを行うこと。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業中のレポートにはコメントをつけてフィードバックするとともに、次の授業で解説して前時の振り返りをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育・保育の基本	幼稚園教育要領・保育所保育指針の全体構造と5領域についての理解 〔時間外学習〕幼稚園教育要領・保育所保育指針に目を通しておくこと
2	領域「言葉」のねらいと内容	教育要領・保育指針における領域「言葉」のねらいと内容についての理解 〔時間外学習〕教育要領の第2章の「言葉」を読んでおくこと
3	領域「言葉」と他領域との関係	領域「言葉」と他領域及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関わり の理解 〔時間外学習〕テキスト第1章 §7を読んでおくこと
4	乳幼児期の発達と言葉	乳幼児の言語発達の過程及び言語能力の特性についての理解 〔時間外学習〕テキスト第2章 §1を読んでおくこと
5	乳幼児期の言語能力の育成	乳幼児の言語能力を育てるための大人の存在、保育者の姿勢及び指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第2章 §2を読んでおくこと
6	幼児の言葉の実際	遊びの中における幼児の言葉の実際と指導上の留意点（グループワーク） 〔時間外学習〕テキスト第2章 §3を読んでおくこと
7	快・不快の気持ちを表現する幼児の言葉	様々な感情体験の中で生まれる、快・不快の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §1を読んでおくこと
8	自分の思いを表現する幼児の言葉	自分の気持ちや考えを表現する幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §2を読んでおくこと
9	生活に必要な幼児の言葉	仲間との生活の中で必要な幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §3を読んでおくこと
10	幼児の言葉の理解を促す指導	数量、大きさ、位置、順序、色彩等を表す言葉の理解を促す指導とその留意点（グループワーク）〔時間外学習〕数量、大きさ、位置等の理解を促す工夫を考えておくこと
11	文字に対する幼児の興味	文字に対する興味、文字で伝えることの楽しさを味わわせる工夫と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第6章を読んでおくこと
12	絵本と幼児の言語発達	幼児の言語発達の観点から見た絵本の特徴と読み聞かせの工夫 〔時間外学習〕絵本を用意し、作品中の表現の特徴について調べておくこと
13	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達の理解及び指導上の留意点（グループワーク、発表学修）〔時間外学習〕読み聞かせの練習をしておくこと
14	「ごっこ遊び」幼児の言語発達	様々な「ごっこ遊び」の中で育つ幼児の言葉の実際と指導上の留意点（グループワーク）〔時間外学習〕テキスト第7章を読んでおくこと
15	領域「言葉」と小学校の教科との関連	領域「言葉」と小学校以降の教科等とのつながりに対する理解 〔時間外学習〕テキスト第8章 §4読んでおくこと

《専門科目》

科目名	表現				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

表現活動の3領域である「音楽表現」、「造形表現」、「身体表現」の基礎的な知識を学ぶ。特に幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「表現」に示されている、ねらいおよび内容を理解し、保育現場で実践されている表現活動について理解を深める。また、本授業は「表現」をキーワードとして、幼少期の思い出に関するグループディスカッションや保育者役となって表現活動を行うなど、実践的な学びを展開する。

《授業の到達目標》

本科目では、「音楽」「造形」「身体」の各表現の学びを通じて、以下の目標の到達を目指す。保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項を理解し、実践できる。本科目の学習内容を踏まえ、「音楽表現領域指導法」「造形表現領域指導法」「身体表現領域指導法」の専門技能と保育実践力に関する基礎的な知識について説明できる。

《成績評価の方法》

授業後の学習記録用紙の記述内容（30%）、「音楽」「造形」「身体」に関する実技試験（60%）、授業態度（10%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著）他
保育内容「音楽表現」声から音楽へ響きあう心と身体・福村出版株式会社

《参考図書》

無藤 隆（監修）『事例で学ぶ 領域 表現』萌文書林
井口太代表編者：「新・幼児の音楽教育」朝日出版社
蓮見清一（発行人）『たのしい手あそびうた DVDブック』宝島社

《授業時間外学習》

各回の学習内容に提示した時間外学習について、図書やインターネットを用いて予習・復習すること。
本授業は15時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に課題レポートを提示し、コメントを記載して次の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期における表現活動の意義(古木)	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「表現」のねらいと内容〔時間外学習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「表現」の箇所を読む(予習・復習1時間)
2	身体表現の特性(古木)	身体表現とダンス、ダンスの特徴と民族性、からだことばに関する考察〔時間外学習〕様々な国のダンスや民族舞踊について調べる(予習・復習1時間)
3	手遊びの実践(練習)(古木)	季節や行事に関連する手遊びの実践、動き・見せ方などの留意点〔時間外学習〕参考図書 など、できるだけ多くの手遊びについて調べる(予習・復習1時間)
4	表現遊び(古木)	子どもの表現プロセスと遊び、ごっこ遊び〔時間外学習〕幼少時代の遊び方を振り返る、授業内容を踏まえて保育者として遊びの援助方法を考える(予習・復習1時間)
5	園行事の身体表現活動(古木)	運動会遊戯や表現発表会における身体表現活動の指導・援助法〔時間外学習〕身体表現に関する園行事を振り返る(予習・復習1時間)
6	手遊びの実践・実技テスト(古木)	第4回で学習した手遊びをの発表、演じ方の考察〔時間外学習〕手遊びを行う際の留意点について自己学習する(予習・復習1時間)
7	5領域：表現(造形表現)とは(佐藤)	乳幼児の表現(造形)活動の意味や考え方を知る〔時間外学習〕保育指針の乳児保育に関わるねらい及び内容、幼児期における領域「表現」のレポート(予習・復習1時間)
8	乳幼児の対話的な造形表現を知る(佐藤)	乳幼児も作れる靴下パペット制作を通して、乳幼児が造形し表現する楽しさや面白さを感じられる援助を考える。〔時間外学習〕オリジナルパペットの構想を練る。
9	造形表現を起点に5領域を総合的に捉える(佐藤)	造形物(パペット)を起点に5領域を総合的に捉えた実践について考える。〔時間外学習〕自分のストーリーに合ったオリジナルパペットを完成させる(復習1時間)
10	造形表現の実践・実技テスト(佐藤)	乳幼児が造形物(パペット)を通して、対話的な表現の楽しさや面白さを感じられる実践を行う〔時間外学習〕パペットを使った実践(発表)の練習(予習・復習1時間)
11	造形表現のまとめ(佐藤)	実践(発表)について、グループワークによる振り返り〔時間外学習〕自らの発表を振り返り、改善点についてまとめておく(予習・復習1時間)
12	音楽表現活動における導入(越智)	音楽表現活動における導入の留意点について、先行研究を通して学ぶ〔時間外学習〕幼少期にどのような歌唱を行ったか振り返る(予習・復習1時間)
13	子どもの音楽的発達段階(越智)	発声器官の発達と声域について〔時間外学習〕乳児期の聴覚の発達について調べておく(予習・復習1時間)
14	音楽表現活動における導入の実践(越智)	音楽表現活動における導入の実践(発表)〔時間外学習〕発表にむけての準備(予習1時間)
15	音楽表現活動における導入のまとめ(越智)	実践(発表)した音楽表現活動についてのグループワークによる振り返り〔時間外学習〕自らの発表を振り返り、改善点についてまとめておく(予習・復習1時間)

《専門科目》

科目名	乳児保育				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

乳幼児期は人間形成の基礎であり、特に人格形成にはまわりの人々の関わりが大切である事を理解し、乳児が健康で安全に生活できるような環境を学び、発達に応じた遊びやかかわり方を身につける。また現在の子育て環境、子育て中の保護者の抱える社会的背景を理解し、情報収集やグループ討議、発表を通過乳児保育が求められる責任について学ぶ。

《授業の到達目標》

乳児の成長発達、乳児への応答的な関わり方の基本を理解し、信頼感や非認知能力獲得につながるための保育者の意識、愛情表現の必要性を自らの言葉と考察で討議、表現することができる。また、乳児保育が必要とされる社会の変化、背景を理解し、子育て中の保護者への関わり方について討議を通して保育者としての考え方をもち表現することができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポート・課題への取り組み(60%)最終レポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「乳児保育」中央法規
保育所保育指針と解説書

《参考図書》

乳児の発達と保育 エイデル研究所
0歳児の育ちの事典 小学館
1歳児の育ちの事典 小学館
2歳児の育ちの事典 小学館

《授業時間外学習》

今回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行い、グループ討議へ備え、小レポートを作成し、最終レポートへとつなげていく。時間外学習は、60時間必要である。

《課題に対するフィードバック等》

小レポートの提出後、コメントを記載してフィードバックし、次の授業で返却、解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の意義	乳児保育の意義、目的、歴史的背景について知り、理解する 〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
2	乳児保育の歴史と現状、制度	乳児保育、子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第2講を読んでおくこと
3	保育所の乳児保育の現状	保育所における乳児保育、保育者の役割、仕事内容について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第3講を読んでおくこと
4	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育、保育者の役割、仕事内容を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第4講を読んでおくこと
5	家庭的保育、小規模保育所について学ぶ	家庭的保育、小規模保育所における乳児保育、保育者の役割、仕事内容を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第5講を読んでおくこと
6	乳児を抱える家庭の環境	3歳未満児とその家庭をとりまく環境と子育て支援の場について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第6講を読んでおくこと
7	乳児の生活リズムと環境	3歳未満児の生活と環境について具体的な方法を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第7講を読んでおくこと
8	乳児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境について具体的な方法を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第8講を読んでおくこと
9	幼児保育への移行の保育	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について具体的な方法を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第9講を読んでおくこと
10	3歳未満児の発育、発達をふまえた援助と関わり	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育者による援助と関わりを理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第10講を読んでおくこと
11	3歳未満児のを踏まえた配慮	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育の配慮について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第11講を読んでおくこと
12	乳児保育における計画、記録、評価の意義	乳児保育における計画、記録、評価とその意義について理解し、実践する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第12講を読んでおくこと
13	職員間の連携について	乳児保育の職員間の連携、協働、チーム保育について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第13講を読んでおくこと
14	保護者との連携の大切さ	保護者との連携、協働、保護者支援取り組みについて理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第14講を読んでおくこと
15	地域との連携	自治体や地域の関係機関等との連携、協働、実際の取り組みについて理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、教科書第15講を読んでおくこと

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ)と童謡(子どもの歌)の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、
・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。
・参考図書 ~ より指定された1曲のピアノ曲を、決められた小節まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの発表の合格数55%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ! レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》

(1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。
全訳バイエル 全音楽譜出版社
ブルグミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社
(2) 入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業(個人レッスン)は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された次の授業までの課題曲を、自己学習しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び14週目の授業でのピアノ実技成果発表について、実施後、授業内で改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学修の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定 [時間外学習] 次回授業にむけての練習(1時間)
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に決定したピアノ曲及び5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、13週目で発表する童謡、3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
13	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡 [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)及び演奏の振り返り [時間外学習] 次回にむけての練習(1時間)
15	童謡伴奏の習得、1年次後期における学び	童謡の弾き歌い発表、保育のピアノ基礎 での学修計画 [時間外学習] 発表にむけての練習(1時間)

《専門科目》

科目名	保育の造形				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

子どもの豊かな表現を育成することを目的として、身近な環境（ヒト・モノ・空間）を捉え直して造形活動に生かす方法について、遊びの延長線にある乳幼児の造形活動について、乳幼児の発達段階や造形素材・道具などの基礎知識について、造形活動におけるドキュメンテーション（記録）の役割と作成方法について、を重点的に学ぶ。また、制作活動のほかにグループディスカッションや発表、ICTの活用を行う。

《授業の到達目標》

乳幼児の造形活動の意義と目的を説明することができる。
 身近な環境を生かした造形活動を提案することができる。
 造形活動のプロセスと学びを捉えてドキュメンテーション（記録）することができる。
 造形活動における基礎的な知識を身につけ、乳幼児の発達段階に応じた造形活動を提案することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとのリフレクションシート（40%）、ドキュメンテーション（40%）、最終課題レポート（20%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の造形表現	乳幼児の発達段階、保育の現場の事例を通じた学習（制作、ワークシート） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
2	環境と融合する造形「色」	色遊びの展開を通して、身近な環境を造形活動に生かす学習（制作、ICTの活用） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
3	環境と融合する造形「光・影・形」	光・影・形の遊びを通して、身近な環境を造形活動に生かす学習（制作、ICTの活用） [事前学習] 素材の選定・準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
4	ドキュメンテーションの作成（1）	ドキュメンテーションの役割を学び実践する学習（第1-3回分の制作） [事前学習] 素材の選定・準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
5	素材の可能性を探る「新聞紙」	素材（新聞紙）を生かした活動を企画・実践する学習（制作、グループワーク、発表） [事前学習] 題材の検討 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
6	素材の可能性を探る「紙コップ・紙皿」	紙コップ・紙皿の造形素材としての可能性を探る学習（制作、グループワーク） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
7	素材の可能性を探る(3)「自然物」	身近な環境から自然物を発見して、造形活動に取り入れる学習（制作） [事前学習] 素材の準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
8	ドキュメンテーションの作成（2）	ドキュメンテーションの役割を学び実践する学習（第5-7回分の制作） [事前学習] 素材の選定・準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
9	モダンテクニック「フロッターージュ」	技法（フロッターージュ）を活用した造形活動を検討する学習（制作） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
10	モダンテクニック「スタンピング」	身近な素材を技法（スタンピング）に活用する学習（制作） [事前学習] 素材の準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
11	モダンテクニック「スクラッチ」	様々な基底材に技法（スクラッチ）を施して、技法と基底材の関係を学ぶ学習（制作） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
12	ドキュメンテーションの作成（3）	ドキュメンテーションの役割を学び実践する学習（第9-11回分の制作） [事前学習] 素材の選定・準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
13	道具の基礎知識	道具（ハサミ、のりなど）に関する学習（制作、グループディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
14	描画材の基礎知識	描画材（クレヨン、絵の具など）に関する学習（制作、グループディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
15	保育における造形を考える	「保育における造形」を考える（グループディスカッション・プレゼンテーション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。
 * スケッチブック（B4）、デジタルカメラ（スマートホ含む）、図工セットを毎回持参すること。

《参考図書》

桐嶋 歩(著), 酒井 美里(写真) 『そざい探求LABO』メイト, 2021
 キャシー・ワイズマン・トッパル 『材料を探求する幼児の表現活動』あいり出版, 2023
 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』開成出版, 2019

《授業時間外学習》

授業で身につけた知識と技法を、実習や学校内の制作活動で応用することなどを通して自己学習を行う。
 また授業時間内において完成できなかった課題については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。（本授業では、15時間程度の時間外学習が必要。）

《課題に対するフィードバック等》

授業ごとの課題（リフレクションシート）の内容は、次回の授業で全体に共有しフィードバックを行う。最終課題にはコメントを付してフィードバックする。